

令和3年度 「美術I」 シラバス

美術科 担当：糸数 みどり

科目名	単位数	学年	学科
美術I	2	1年	5学科（生物資源科、食糧生産科、食品加工科、環境創造科、生活デザイン科）

1 学習の目標

「美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。」

2 授業の目標および展開と形態

- ・週1回、2時間連続授業とする。
- ・授業は実習を主体とする。
- ・自分で描いたり創ったり、鑑賞することを通して「美的感性」を高め、見たこと、感じたことを「表現」できることをめざす。

3 学習方法

- ・設定された課題を計画性をもって学習し、作品を完成させ締め切り日までに提出する。
- ・デザインセットや教材、教具については丁寧に使用し、片付けまでしっかり行う。
- ・課題の進行状況がなんらかの理由で遅れた場合は各自でその遅れを取り戻すように努力する。
- ・課題作品は、他教科の「定期テスト」と同等の扱いをするので必ず提出すること。

4 評価の観点・方法について

評価の観点	内 容	評価の方法
関心・意欲・態度	美術文化を尊重し、意欲的、主体的、創造的に表現や鑑賞の活動に取り組もうとする。	授業態度、出席状況、制作に取り組む姿勢、作品の提出などで評価します。
芸術的な感受や表現の工夫	感性や創造力を働かせて感じ取ったことや考えたことなどを基に豊かに発想し、良さや美しさなどを考える。	アイデアスケッチや提出作品などで評価します。
創造的な表現の技能	創造的な表現活動をするために必要な造形感覚や専門的な技能を身につけ表現方法を創意工夫する。	制作過程の様子や提出された作品で評価します。
鑑賞の能力	美術作品や文化遺産などについて知性感性や想像力を働かせてよさや美しさなどを感じ取ったり、味わったりする。	鑑賞の感想等で評価します。

5 学習計画

月	題材名	時数	学習内容	指導目標
4	オリエンテーション	4	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画と基本的な心構え ・ファイル準備 ・自己紹介表制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身を描き、自由な発想で表現し、絵を通して自己紹介になるように描く。
	素描	8	<ul style="list-style-type: none"> ・美術で使用する専門道具の使い方の理解 ・描くための技法を学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な専門道具の使用方法を学び、幅広い表現方法を学び、自ら選ぶ力を養う。
5	色彩	4	<ul style="list-style-type: none"> ・色の性質についての基礎的な知識を学習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩に関する基本的な知識を理解することができる。
6	生活の中のデザイン	8	<ul style="list-style-type: none"> ・サインやピクトグラムについて学び、伝えたいテーマに基づいたデザインを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいテーマに沿った文字のデザインを考えることができる。
7	視覚伝達デザイン	8	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なテーマを題材にポスター制作を行い、皆にどのように伝えるのかを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5w1h を用いて伝えたい内容を明確に伝えることができる。
10	光を楽しむデザイン	8	<ul style="list-style-type: none"> ・光を取り込むデザインにはどのようなものがあるかを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・透過光を意識したデザインを考えることができる。
11 ・ 12	美しい構成	8	<ul style="list-style-type: none"> ・幾何学図形を用いて美しい構成を考える。 ・レリーフの特徴を学び自分の制作に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら美しい構成を考え幾何学図形を配置することができる。
1	郷土を理解する	8	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の伝統工芸の歴史と種類、技法について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・染織についての考え方を理解することができる。
2	身に纏う造形	8	<ul style="list-style-type: none"> ・身近なかたちについて考え、自由な形のお面を制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身につけるものの制作を通して伝えたいことを表現することができる。
3	作品集表紙制作	6	<ul style="list-style-type: none"> ・1年を振り返って特に印象に残っていることを作品の表紙に描く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで学んできた表現方法や道具を自ら選んで使用し表現することができる。

令和3年度 「工芸I」 シラバス

美術科 担当：糸数 みどり

科目名	単位数	学年	学科
工芸 I	2	2年	生活デザイン科

1 学習の目標

「工芸の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり工芸を愛好する心情と生活を心豊かにするために工夫する態度を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、工芸と伝統と文化についての理解を深める。」

2 授業の目標および展開と形態

- ・週1回、2時間連続授業とする。
- ・授業は実習を主体とする。
- ・自分で描いたり創ったり、鑑賞することを通して「美的感性」を高め、手順や技法等を理解し、見通しを持って制作できることをめざす。

3 学習方法

- ・設定された課題に計画性をもって学習し、作品を完成させ締め切り日までに提出する。
- ・デザインセットや教材、教具についてははていねい使用し片付けまでしっかり行う。
- ・課題の進行状況がなんらかの理由で遅れた場合は各自でその遅れを取り戻すように努力する。
- ・課題作品は、他教科の「定期テスト」と同等の扱いをするので必ず提出すること。

4 評価の観点・方法について

評価の観点	内 容	評価の方法
関心・意欲・態度	身近な生活や制作者の思いに関心を持ち、工芸文化を尊重する心を持って、意欲的、主体的、創造的に制作や鑑賞の活動に取り組もうとする。	授業態度、出席状況、制作に取り組む姿勢、作品の提出などで評価します。
芸術的な感受や表現の工夫	感性や創造力を働かせて自然や素材、身近な生活や自己の思いなどから心豊かに発想し、用途と美しさの調和を考えて、伝統的な表現のよさなどを生かして制作の構想を練っている。	アイディアスケッチや提出作品などで評価します。
創造的な表現の技能	制作方法を理解し、意図に応じて材料や用具を活用したり、手順や技法などを吟味したりするなどし、創意工夫して制作している。	制作過程の様子や提出された作品で評価します。
鑑賞の能力	工芸作品や文化遺産などのよさや美しさ、作者の意図と表現の工夫などを感じ取り、制作過程における工夫や素材の生かし方、生活や社会を豊かにする工芸の働きについての理解を深めている。	鑑賞の感想等で評価します。

5 学習計画

月	題材名	時数	学習内容	指導目標
4	オリエンテーション	2	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画と基本的な心構え ファイル準備 	
	コラージュ	4	<ul style="list-style-type: none"> コラージュの技を使って美しい構成を考え、自己紹介表を制作する。 	<ul style="list-style-type: none"> コラージュの特徴を踏まえて和紙や色画用紙を使い、自分の意図する表現方法で作品を制作する。
5				
6	和紙を染める	8	<ul style="list-style-type: none"> 色のイメージについての基礎的な知識を学び、配色を予想しながら和紙の折紙染めに応用していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 色彩に関する基本的な知識を理解することができる。 染めた和紙を編み込む際、見通しを持って配色し、構成できる。
7	小紋の世界	10	<ul style="list-style-type: none"> 点の集合体で様々な色合いや文様が浮き上がるように見えることを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な色紙を使って点の集合体で形や色合いが変化することを理解することができる。
9	身近なものをつくる(1)	6	<ul style="list-style-type: none"> うちわの制作。 前回制作した和紙と小紋を使って実際にうちわ制作に応用していく 	<ul style="list-style-type: none"> 前回制作した和紙や小紋の文様を応用して自分の意図に合った表現方法を見つけることができる。
10				
11	日本文化と自然	10	<ul style="list-style-type: none"> 日本に伝わる様々な伝説がなぜ現代まで伝えられているのかを学び沖縄の文化について深く理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 日本本土とは違う食・生活習慣を持ち独特の文化を持つことを学び郷土に愛着を持つことができる
12	世界の工芸	6	<ul style="list-style-type: none"> 伝統工芸は日本だけでなく、世界各国にそれぞれ工芸があることを学びグローバルな視点で考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な装飾品を参考に世界各国の工芸品を紹介し、実際に制作しその国の人たちの思いを感じ取ることができる。
1				
2	沖縄の工芸	10	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄の植物や伝統工芸に関心を持ち、歴史的背景や特徴、伝統と現代の生活への応用などについて理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄の伝統工芸である紅型の考え方や織色について学び先代から受け継がれてきた思いを感じ取ることができる。
	身近なものをつくる(2)	10	<ul style="list-style-type: none"> 人の所作や、用途・機能について考え、スプーンを彫る。 	<ul style="list-style-type: none"> 素材(木材)の特徴や、使用する人の心情を考え、制作方法を理解し、安全に創意工夫して制作することができる。
3	1年を振り返る	4	<ul style="list-style-type: none"> 1年を振り返って作品集の表紙を制作する 	<ul style="list-style-type: none"> 1年を振り返り特に印象に残ったことを描き表紙にする。

令和3年度 ビジュアルデザインシラバス

美術科 系数 みどり

科目名	単位数	学年	必修・選択	備考
ビジュアルデザイン	2	2・3	選択	

1. 目標

この科目では、デザインについて理解を深め基礎知識を学ぶ。デザインの表現における構想・美しく整理された表示技能と、機能的表現の修得を目指す。

2. デザインとは

この科目で学ぶデザインとは視覚的な伝達効果を主とする。様々な表現方法を用いて、生活や社会に役立つ、情報の視覚伝達デザイン、目的や対象のニーズに沿った機能的かつ美しい価値を生み出すことが目的である。

3. 授業内容（題材）予定

- 一学期・・・「色の仕組みと視覚効果」「デザインの技法と道具の使い方」「イメージを形にする」他
- 二学期・・・「文字のレタリングと視覚効果」「グラフィックデザイン」「模様と装飾」他
- 三学期・・・「インスタレーション」、「作品集のまとめと表紙制作」他

4. 評価の観点

評価の観点			
関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な表現の技法	鑑賞
美術文化を尊重し、意欲的、主体的に制作活動に取り組む態度。	感性(美しさの価値を感じる力)を基に創造的、機能的な表現を求めて構想する。	表現活動に必要な造形感覚や技能を身につけ、表現方法を工夫する。	作品を丁寧に観察し、幅広くデザインの価値や働きについてまとめ、伝える。
評価方法			
授業態度、出席状況、制作に取り組む姿勢、作品の提出などで評価します。	アイデアスケッチやプレゼンテーションで評価します。	制作過程の構想・試行や提出された作品で評価します。	鑑賞のレポート等で評価します。

上記の評価の観点をふまえ次ぎのような配分で総合評価を行う

アイデア・表現の工夫・創造性・基礎知識	関心・意欲・態度
制作過程、作品の内容、鑑賞レポート、筆記試験	出席状況、授業態度、制作姿勢、提出物
70%	30%

5. 授業の展開と形態

- ・週1回、2時間連続授業とする。
- ・授業は講義と実技を掛け合わせた内容である。

6. 学習方法

- ・設定された課題を計画的に学習し、意欲的に作品の完成を目指す。締め切り日までに提出する。
- ・課題に各自目的を持って試行錯誤し、進行状況が遅れた場合は、その遅れを取り戻すように努力する。
- ・課題作品は必ず、仕上げて提出する。また、期末・学年末考査も成績点と評定に加味する。
- ・作品鑑賞時は聞く態度やマナーを守り、作品コンセプト等についてきちんとプレゼンテーションして伝える。

学期	月	時間	領域・教材名	指導目標	指導事項・留意点
一 学 期	4	1	オリエンテーション	・授業のルール、マナーを確認する。課題発表。	・授業のルールやマナーについて確認する。 授業の目的や目標、1年を通してのスケ ジュールを把握する。
	5				
	6	5	色の仕組みと視覚効果	・色の仕組みと見え方を学び、豊かな色彩感覚を身につける。	・好きな色の魅力について考え、色から伝わるイメージについて考察する。 ・混色することで自分がイメージする色を作ることができる。
	7 (24)	8	デザインの技法と道具の使い方	・デザインで使用する専門的な描画材を使って作品制作ができるよう基本的な道具の扱い方を学ぶ。	・用途や目的に合った描画材を選ぶことができるよう基本的な使い方を体験する。
		10	イメージを形にする	・頭の中でイメージしたデザインを具体的な形にする。	・ワークシートを使い頭の中でイメージしているものを具体的な形にしていく。
二 学 期	9	4	文字のレタリングと視覚効果	・文字の大きさやデザインの形、色によってイメージが変わることを理解する。	・商品ロゴ等を例に挙げて説明する。 ・文字から受ける感情を例に挙げ、テーマが決まりやすいように配慮する。
	10				
	11	8	グラフィックデザイン (ポスター制作)	・学んだことを踏まえ、配色・文字・レイアウトを工夫し、効果的にメッセージが伝えられるポスターをデザインする。	・参考作品の提示。 ・適宜プリント等使用し、“伝える”為の表現の工夫についてアイデアやコンセプトを整理しやすいよう支援する。
	12 (28)	6	模様と装飾	・単純な形を1パターンとして連続展開することで複雑な模様ができることを学ぶ。	・幾何学の形を組み合わせる原型となるパターン文様を考える。 ・パターンの使い連続文様になるよう組み立てる。
		1	鑑賞会・まとめ	・2学期学んだことを振り返る	・ワークシートを使って振り返る。
三 学 期	1	1 2	インスタレーション	・和の空間を演出する。	・和風や洋風といった空間の雰囲気を各自で考えてみる
	2				
	3 (18)	4	作品集の表紙	・1年を振り返り作品集を制作	・もう一度使ってみたい技法を選び表現する
		2	鑑賞会・まとめ	・友達作品を鑑賞し、その魅力を味わう。	・作品を並べて、商品の魅力やコンセプト等を発表してもらう。